

● 4月選評

小島なお

・こはくいろ（大阪府）

通過する

私のやばんを見抜け、  
彗星。

突如として出現し、接近する彗星。古代から災いとも、吉兆のしるしとも言われてきた天体。私のやばんは、人間の野蛮で、見抜いて、誰が止めてくれるのか。

・マズルカ（山口県）

ゆーとぴあそんな程度の学歴で

ユートピアにおいても行われている学歴マウンティング。現実社会のアンチテーゼとしての理想郷も、人間が住もうとする時点で理想は幻となってしまう。

・香取小春（宮崎県）

飲めますね

これは、飲めると

生垣の向こうの

桜を覗いたりした

「カレーは飲みものです」というときと近い感覚の「飲めますね」の桜。うつくしいものを思わず口に入れてしまいたくなる、本能をくすぐられる春。

・橋口 諒介（東京都）

あのとくに破った卵の殻をまた  
日傘代わりに使いたい夏

「あのとき」は自分が産まれたときか、それとも原初の命のはじまりのときか。  
日傘のなかから仰ぐ夏空を、この世を初めて透かし見たなつかしきで。

・青井しおり（東京都）

p.104、10行目だけ個包装

君の旅路の葉にしてね

そこにはどんなフレーズが記されているのだろう。個包装されたその言葉をポケットに入れて、お腹がすいたとき、心細いときのために携えて長い長い旅へ。

・金光 舞（埼玉県）

サルビアが心臓なら 鳳仙花は癌  
母さん、戻ってこないけど

ずっと言ってるの

葉から立ち上がるように咲くサルビアと、葉の根元に巣喰うように咲く鳳仙花。  
赤い癌に吞まれていった母さんの赤い心臓は、鮮烈な夏のトラウマとして。

・榊 隆太（東京都）

順番にサランラップで包む  
タンポポが動き回らないように

地面を這うタンポポは、アスファルトの僅かな割れ目にもいつのまに咲いている。勝手に動き回らないように、大人しくしていなさいと春を保存する。

・さほ（神奈川県）

## 眠れない人だけが知る花筏

夜の意識を流れてゆく川。眠れる人は水流に沿うように眠り、眠れない人は水面を見つめながら夜を過ごすのだろう。みひらく花筏は不眠の人々を慰めている。

・高田皓輔（千葉県）

知られたくない

過去があるわけじゃない

落としたキーホルダーを

自分で拾う

隠しているわけではない。けれど、知らない誰かに憶測をされたり、誤解をされるくらいなら。キーホルダーひとつだって、私を構成する一部なのだから。

・佐藤 翔（東京都）

このひとに海老のビスクを

食べさせる

揺るぎない決意と使命とを感じさせる断言。このひとに何をしてあげたいか。いくらでもありそうな選択肢のなかで、海老のビスクにはなにか絶対性がある。